

活動報告書

山口大学大学院創成科学研究科
環境共生系専攻 エネルギー・環境システムコース
2489030041 萩原楨吾

会議名：ASEAN-NEXUS Early Career Researchers Conclave

会議のテーマ：循環経済

開催期間：2025年12月7日～11日

開催場所：シンガポール

開催目的：日本と ASEAN 諸国の若手研究者（PhD 学生及びポスドク）が交流を行い、ネットワーキングや知識共有を行う

概要：

今回私はシンガポールで開催された「ASEAN-NEXUS Early Career Researchers Conclave」に参加しました。この会議では、日本と ASEAN に加盟する国と地域の若手研究者（PhD 及びポスドク）が交流を行い、与えられたテーマについて情報共有や議論を行いました。会議のテーマが「循環経済」とかなり分野が広かったこともあり、自分の専門ではない研究者も参加されてすごく貴重な交流になりました。また、日 ASEAN の研究者間でグループを作り、与えられたテーマに対して意見交換してその成果を発表する活動もありました。与えられたテーマは、「もし今後 ASEAN 諸国内の研究者同士が協力して研究を行う場合、どのようなテーマができるか？もしそのテーマを日本と共同で行う場合、何が必要なのか？」です。私のグループでは「Nano Fertilizer」に焦点を当てて、ASEAN 諸国内で現在課題となっていること、その解決策や日本と共同研究するならば何が必要かについてそれぞれ出身が異なる研究者たちと議論を行い、最終日に発表して意見交換を行いました。自分自身、出身が異なる国や地域の研究者たちと話し合うことは初めてでしたので、とても貴重な経験になりました。また、それぞれ分野が異なる研究者同士が今回のグループ活動のように一つのテーマに対して議論しあうことはとても重要な経験であり、自分の知識をさらに広げることができるとても良い機会になりました。



Conclave にグループ発表の様子



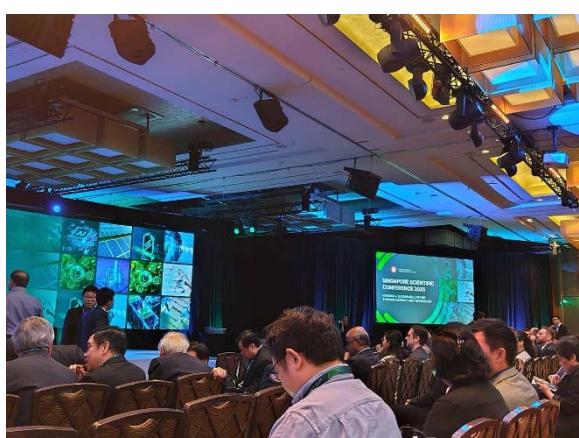
グループ発表のテーマ

上記の Conclave に加えて、今回私はもう一つ「SSC (Singapore Scientific Conference) 2025」に参加しました。この学会は 10 年に 1 回シンガポールで開催される大規模な国際学会で、先程の Conclave と同様のテーマ「循環経済」に加えて「環境問題」にも焦点をあてて、世界中から研究者が集まって意見交換や情報共有を行いました。SSC2025 の大きなテーマは「循環経済」ですが、そこからさらに「Manufacturing (主に機器分析や AI など情報系)」、「Environment」、「Energy」、「Health (医学分野)」に分類されました。私はその中で「Energy」に分類され、そこで私の研究内容をポスターで発表しました。ポスター発表の時間になると、多くの研究者たちが自分の発表を聞きに来ていただいたり、質問をしていただきました。もちろん今回の学会の分野がかなり幅広かったため、ほとんどが自分の専門外の分野の方が来られましたが、その方たちに自分の研究を分かりやすく伝えるためにかなり工夫しました。また、ポスター発表以外の時間では、他の研究者のポスターを見て回って自身の研究に関連した情報を集めたり、海外の研究者による講演を聞いたりしました。

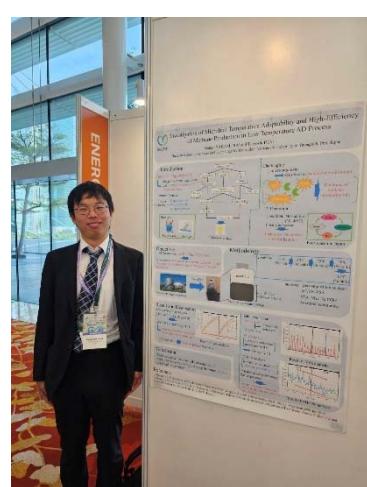
今回自分が参加した 2 つの会議／学会において、沢山のことを学んだとても貴重な経験になりました。初めての国際学会であり、実際に参加してみると日本の学会と異なった部分も多々あって、ちゃんと発表できるか不安なところもありました。しかし、今回出発前から現地での活動まで沢山サポートいただいた JST (科学技術振興機構) の皆様のお力があってこそ、無事に終えることができました。JST の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

また、今回の学会で自分の専門外の研究者に伝える力もかなり身に付いたと思います。自分の研究をどのようにすれば理解してもらえるのか、そこを工夫し考えることができたとても大きな経験となりました。

今後も、今回参加した学会と類似した国際学会に参加する時も、自分と専門外の研究者の方たちに自身の研究をプレゼンする能力をさらに磨いていき、意見交換を行っていくことで自身の研究ネットワークをさらに広げていきたいと思いました。



学会 (SSC2025) の様子



SSC2025 におけるポスター発表

発表題目

Investigation of Microbial Temperature Adaptability and High-Efficiency of Methane Production in Low Temperature AD (Anaerobic Digestion) Process

発表者

Shingo Hagiwara, Tsuyoshi Imai